



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 炭井 孝志

問合せ先責任者（役職名） 取締役 常務執行役員 （氏名） 村田 隆

TEL 03-5318-7530

四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日 配当支払開始予定日 平成29年12月4日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	37,021	2.8	2,152	△13.1	2,184	△12.3	1,489	△11.9
29年3月期第2四半期	36,009	8.3	2,476	35.6	2,490	38.8	1,690	11.1

（注）包括利益 30年3月期第2四半期 1,704百万円（4.3%） 29年3月期第2四半期 1,634百万円（26.0%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	90.43	—
29年3月期第2四半期	118.98	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	57,448	29,781	51.8
29年3月期	51,442	28,456	55.3

（参考）自己資本 30年3月期第2四半期 29,781百万円 29年3月期 28,456百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	14.00	—	23.00	37.00
30年3月期	—	18.00	—	—	—
30年3月期（予想）	—	—	—	19.00	37.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	75,000	5.9	4,080	2.3	4,100	2.1	2,870	0.1	174.20

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

新規 一社、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	16,476,000株	29年3月期	16,476,000株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	284株	29年3月期	273株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	16,475,718株	29年3月期2Q	14,210,787株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、平成29年11月21日（火）に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。説明会内容につきましては、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日）におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善等を受けて個人消費は持ち直しの動きが見られましたが、8月の各地での記録的な大雨等の影響によりやや足踏み状態になったと思われまます。しかしながら、米国経済の力強い回復に牽引され輸出が好調であること、また企業収益においても経常利益が過去最高水準にあることを背景に設備投資も堅調であることなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、「輝く未来のために」という目標を掲げ、平成28年3月期より進めております中期経営計画『KENKO Five Code 2015-2017』が最終年度に入りました。この中期経営計画で示しております当社グループの「5つの指針」は次のとおりです。

- (I) Globalization（世界的拡大）
- (II) Innovation（革新）
- (III) Best practice（最良実施）
- (IV) Knowledge management（知識管理）
- (V) Communication(Branding)（コミュニケーション（ブランド育成））

以上の5つの指針に基づいた取り組みの成果は次のとおりであります。

◇グループ生産拠点構想の進捗については、株式会社ダイエットクック白老及び株式会社関東ダイエットクックは平成29年6月、当社の西日本工場は平成29年9月に建設工事開始にあたっての安全祈願祭を執り行い、増設工事を開始、平成31年3月期の稼働に向けて着実に準備を進めております。

◇日本の伝統的な料理である和惣菜を基本に素材・味・彩りを大切にした商品ブランド『和彩万菜®』シリーズが、日本食糧新聞社主催の「第21回 業務用加工食品ヒット賞」（和食部門）を受賞、近年の和食ブームも背景にして売上高増加に寄与しております。

◇健康志向の高まりを受け、スーパーフードとして注目度の高いキヌアなどを使用した商品『冷凍7種のグレインズミックス』が、「日本雑穀アワード」（運営：一般社団法人日本雑穀協会）の第1回業務用食品部門において金賞を受賞しました。

当第2四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

#### ①売上高

売上高につきましては、サラダ・総菜類、タマゴ加工品、マヨネーズ・ドレッシング類といずれの商材も伸ばすことができました。サラダ・総菜類では和惣菜の伸びが大きく、タマゴ加工品ではタマゴサラダ、またマヨネーズ・ドレッシング類では、ファストフード向けの商品が好調であり、売上を伸ばすことができました。

#### ②利益

利益につきましては、昨年夏の北海道における台風被害などで、毎年秋に収穫される馬鈴薯をはじめとした野菜類の全国的な供給不足が発生しました。そのため、当社でも北海道産新芋の使用が始まる当年9月まで、原料調達コストの上昇や生産効率の低下等が続いたことが減益要因となりました。しかしながら、新芋の生育状況は平年並みに順調であることから、今後は原料調達コストの上昇要因は解消されるものと想定しております。また、売上高増加に伴う工場の操業度効果をはじめとした原価低減も引き続き進めてまいります。

当第2四半期連結累計期間における連結売上高は37,021百万円（前年同四半期比1,012百万円の増加、2.8%増）、連結営業利益は2,152百万円（前年同四半期比323百万円の減少、13.1%減）、連結経常利益は2,184百万円（前年同四半期比305百万円の減少、12.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,489百万円（前年同四半期比200百万円の減少、11.9%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

#### （調味料・加工食品事業）

サラダ・総菜類につきましては、コンビニエンスストアや外食向けに主力商品のポテトサラダが伸長しました。和惣菜では、きんぴらごぼうがお弁当用に採用され増加しました。また、オニオンを使用した商品の増加や外食向けに春雨サラダが好調に推移し、売上高増加に寄与しました。

タマゴ加工品につきましては、サンドイッチ用や総菜パン用のタマゴサラダ、お弁当用の厚焼き卵、麺用の錦糸卵がコンビニエンスストアを中心に新規採用され増加しました。

マヨネーズ・ドレッシング類につきましては、製パン向けに10kg形態のマヨネーズが新規採用されました。ドレッシングではコンビニエンスストア向けの小袋形態の商品が前年を上回り推移しました。また、ファストフード向けにナゲットソースや500ml形態のドレッシングが伸長しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は30,885百万円（前年同四半期比930百万円の増加、3.1%増）、セグメント利益は1,785百万円（前年同四半期比89百万円の減少、4.8%減）となりました。

## (総菜関連事業等)

食品スーパー向けにえび、明太子、ゴボウを使用した商品が新規採用されました。また、だし巻卵やスープ系の商品も採用され売上高増加に寄与しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は5,501百万円（前年同四半期比52百万円の増加、1.0%増）、セグメント利益は378百万円（前年同四半期比242百万円の減少、39.1%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、57,448百万円（前連結会計年度比6,006百万円の増加、11.7%増）となりました。これは、主に建設仮勘定が3,649百万円増加したこと等によるものであります。

## (負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、27,666百万円（前連結会計年度比4,680百万円の増加、20.4%増）となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が2,807百万円増加したこと等によるものであります。

## (純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、29,781百万円（前連結会計年度比1,325百万円の増加、4.7%増）となりました。

## (自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、51.8%（前連結会計年度比3.5ポイント減）となりました。

## キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、14,440百万円（前連結会計年度末比4.8%増）となりました。当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、3,204百万円（前年同四半期比316百万円の増加）となりました。これは、主として税金等調整前四半期純利益2,185百万円等によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、4,155百万円（前年同四半期比2,770百万円使用資金の増加）となりました。これは、主として有形固定資産の取得による支出4,133百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、1,611百万円(前年同四半期比2,174百万円の増加)となりました。これは、長期借入れによる収入2,053百万円、割賦債務の返済による支出890百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,779	14,440
受取手形及び売掛金	11,436	14,415
商品及び製品	1,881	1,784
仕掛品	17	14
原材料及び貯蔵品	919	1,000
繰延税金資産	350	364
その他	813	145
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	29,196	32,164
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,461	5,239
機械装置及び運搬具(純額)	6,653	6,164
土地	5,968	5,968
建設仮勘定	8	3,657
その他(純額)	377	347
有形固定資産合計	18,469	21,377
無形固定資産		
無形固定資産合計	268	223
投資その他の資産		
繰延税金資産	398	328
その他	3,148	3,391
貸倒引当金	△40	△37
投資その他の資産合計	3,506	3,682
固定資産合計	22,245	25,284
資産合計	51,442	57,448



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,751	11,558
1年内返済予定の長期借入金	920	813
未払法人税等	909	819
その他の引当金	460	578
その他	5,445	5,787
流動負債合計	16,487	19,558
固定負債		
長期借入金	1,489	3,123
退職給付に係る負債	443	407
その他の引当金	934	951
その他	3,630	3,625
固定負債合計	6,498	8,108
負債合計	22,985	27,666
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,424	5,424
資本剰余金	5,691	5,691
利益剰余金	16,688	17,799
自己株式	△0	△0
株主資本合計	27,803	28,914
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	798	991
為替換算調整勘定	9	2
退職給付に係る調整累計額	△155	△126
その他の包括利益累計額合計	652	867
純資産合計	28,456	29,781
負債純資産合計	51,442	57,448

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	36,009	37,021
売上原価	26,436	27,445
売上総利益	9,573	9,576
販売費及び一般管理費	7,097	7,423
営業利益	2,476	2,152
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	18	19
その他	49	55
営業外収益合計	68	74
営業外費用		
支払利息	29	30
持分法による投資損失	14	7
その他	10	5
営業外費用合計	54	43
経常利益	2,490	2,184
特別利益		
補助金収入	17	8
その他	5	0
特別利益合計	22	8
特別損失		
固定資産除却損	4	5
減損損失	2	1
特別損失合計	6	7
税金等調整前四半期純利益	2,506	2,185
法人税、住民税及び事業税	832	728
法人税等調整額	△16	△32
法人税等合計	815	696
四半期純利益	1,690	1,489
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,690	1,489

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	1,690	1,489
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△70	193
退職給付に係る調整額	38	28
持分法適用会社に対する持分相当額	△24	△7
その他の包括利益合計	△56	214
四半期包括利益	1,634	1,704
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,634	1,704

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,506	2,185
減価償却費	824	923
引当金の増減額 (△は減少)	129	131
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	47	5
受取利息及び受取配当金	△19	△19
支払利息	29	30
売上債権の増減額 (△は増加)	△665	△2,978
たな卸資産の増減額 (△は増加)	55	19
仕入債務の増減額 (△は減少)	619	2,807
未払金の増減額 (△は減少)	△128	566
その他	△103	455
小計	3,295	4,126
利息及び配当金の受取額	19	19
利息の支払額	△29	△30
法人税等の支払額	△397	△911
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,888	3,204
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,337	△4,133
無形固定資産の取得による支出	△36	△9
投資有価証券の取得による支出	△10	△11
その他	△0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,385	△4,155
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	324	2,053
長期借入金の返済による支出	△762	△525
配当金の支払額	△241	△378
割賦取引による収入	762	1,353
割賦債務の返済による支出	△643	△890
その他	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△562	1,611
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	940	660
現金及び現金同等物の期首残高	7,412	13,779
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,353	14,440

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	29,954	5,449	35,404	605	36,009	—	36,009
セグメント間の 内部売上高又は振替高	314	4,368	4,682	—	4,682	△4,682	—
計	30,269	9,817	40,087	605	40,692	△4,682	36,009
セグメント利益又は損失(△)	1,875	620	2,495	△17	2,478	11	2,490

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額11百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	30,885	5,501	36,386	635	37,021	—	37,021
セグメント間の 内部売上高又は振替高	317	4,433	4,750	—	4,750	△4,750	—
計	31,202	9,934	41,136	635	41,772	△4,750	37,021
セグメント利益又は損失(△)	1,785	378	2,163	△19	2,143	40	2,184

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額40百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。